

一 解答

- 問一 ウ
問二 ア
問三 人気者でなんでもよくでき、いつも笑顔で周りに愛される子。
問四 タウン誌の記事は、ごく限った人しか関心を持たないと思っていたから。
問五 ア
問六 息子が周りの人にほめられうれしく、それを誇らしく思う気持ち。
問七 Fは自分の発言が本心と言い切れない事に気づき、快くない気持ちで、Gは母親が誇りに思う健介が嫉ましく、認められない自分を残念に思い、寂しく思う気持ち。
問八 誰かに認められほめて欲しい、優しさやあたたかさが欲しい気持ち。

二

- 問一 1 エ 2 オ 3 ウ 4 イ
問二 イ
問三 自分では見えず他人から見られる「背中」を常に意識するというもの。
問四 罪の文化： 神さまが見ているから恥ずかしいことはできないということ。 恥の文化： 他人の目が気になるので、恥ずかしいことはできないということ。
問五 イ
問六 キリスト教的なアプローチとは正反對のプロセスでも目的を達するなら構わないということ。
問七 全知全能の「神」が見ているからではなく、社会的な自分の「位置」を知り、創造的に風景を見下ろす「視点」に立つことによって、人間を社会化する術が得られる。
問八 ① 頭腦的 ② 律（する） ③ 解釈 ④ 機会 ⑤ 訓練

一 解説

- 問三 本文前半の「私は架空の五年生、四月十日〱いつだって笑顔の女の子。」の段落に早紀ちゃんのこと書かれ、本文後半の「健介はあんなに上手なのに。」の段落に健介のことが具体的に書かれています。ダリアという言葉に象徴される特徴をいくつかおさえてまとめます。
問六 会社の人にはめられたり、クラスの間でも健介が話題にあがったことを知り、まんざらでもなさそうな顔をしている母親の様子から、うれしさや健介を誇りに思う気持ちが伺えます。

二

- 問四 四、五段落目の内容に着目し、「罪の文化」、「恥の文化」の内容が具体的に表現されている箇所をおさえて記述します。
問五 本文中に「しかし、「人」は心の中までは見てくれません。心の中が正しくても、行いや姿かたちにそれが外形化していなければ、その「正しさ」は社会的には承認されません。」という記述があります。そのため選択肢イがふさわしいと考えられます。
問七 傍線Fを含む一文にある「身体をコントロールする術を学ぶ」が言い表す内容を考慮し、「神」「位置」「視点」の説明を加えながらまとめます。